

## ・懇談会等【共益事業】

---

### (1) 会員懇談会

会員懇談会は、全会員を対象に、大臣や閣僚、国内外の各界有識者等を来賓として招き、時宜にあった話題に関する講演会と意見交換を行っている。本年度は1回の本懇談会と同友クラブと合同の新年会員懇談会を開催した。

第1回は9月30日にアルツハイマー病研究の第一人者である岩坪威 東京大学大学院医学系研究科 教授を迎え、「アルツハイマー病の原因、症状、予防そして今後の研究」をテーマに開催した。2025年には認知症の患者数が700万人を超えると予測され、その社会的コストは、すでに財政圧迫の一大要因となっていることを踏まえ、アルツハイマー病の現状とその最先端の研究などについて伺った。

毎年恒例となっている同友クラブと合同の新年会員懇談会は、オリンピック・リオデジャネイロ大会(2016年開催)と東京大会(2020年開催)に焦点を当て、1月23日に開催した。来賓には、竹田恆和 日本オリンピック委員会 会長を招聘し、「リオデジャネイロ大会から東京大会へ」をテーマに、リオデジャネイロ大会の振り返りと東京大会へ向けた取り組みについて講演いただいた。講演では、南米初のオリンピックで史上最多となる41個のメダルを獲得した日本選手団の活躍の振り返りと、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催の成功に向けての取り組みの方向性などが示された。講演後には懇談会を開催し、参加者同士の交流を深めた。

### (2) 会員セミナー

会員セミナー(立石文雄委員長、成川哲夫委員長)は全会員を対象として、会員の知識の向上・知恵の醸成に貢献し、会員の資質向上を図ることにより、経済同友会活動の活性化に寄与することを目的として活動している。

本年度は7月と1月に運営委員会を開催し、本セミナーの企画・運営について協議した。その結果、「前立腺癌の最新手術～ロボットを用いた最新の精密手術～」 「世界経済と資源問題」 「世界を照らすLED」 「人口知能は経済構造をどう変化させるか」 「Brexitの帰結」 「オリンピックへの道～最高のパフォーマンスを発揮するには～」 「2017年の世界経済～資本主義はどう変わって行くのか～」等、多岐にわたるテーマの専門家を招聘し開催した。

これに加え、直近のニュースから、1月は外交ジャーナリスト・作家 手嶋龍一氏より「トランプ新政権の船出と日本の針路～岐路にたつ日米同盟～」と題する講演を実施し、最新の情報提供を行った。

開催後は講演録(セミナー通報)を作成し、会員専用ウェブサイト配信した。また、本年度も引き続き本会親睦団体である同友クラブメンバーに案内し、相互連携・交流強化・情報提供に努めた。

さらに、本会創立 70 周年を節目に立ち上げた『みんなで描くみんなの未来プロジェクト』の実践として、本セミナーを世代や立場を超えた開かれた議論の場である「テラス」の 1 つに位置づけ、2 月より各地経済同友会会員に参加案内を呼びかけた。2 月から 3 月開催のセミナーには、秋田、埼玉、群馬、福井、岡山、新潟の各地経済同友会の会員が参加した。

### ( 3 ) 産業懇談会

産業懇談会(稲野和利代表世話人、江幡真史代表世話人)は、会員の相互交流、情報交換を目的とし、14 グループがそれぞれの世話人および運営委員を中心として自主的な活動を行っている。

本年度の定例会はグループ毎に昼食会形式で開催し、メンバーからの話題提供やさまざまな分野で活躍される外部講師を招聘し、多彩なテーマによる講演と意見交換を実施した。そのほか、現場を知ることが目的とした見学会や、グループで合同の懇談会を開催するなど知的情報交換と交流を中心とした活動を展開した。

また毎年恒例の「14 グループ合同懇談会」(暑気払い)を 7 月に開催し、グループの枠を超えたメンバー相互の交流を深めた。

一方で 12 月に開催した「14 グループ世話人会」には世話人 19 名が出席し、自身のグループの特徴的な活動を紹介するなどの情報交換を行った。

また、産業懇談会の活性化方策の一つとして、継続的にメンバー拡充を行うこととし、幹事および比較的最近入会された会員(2013 年度以降)を重点対象として勧誘することを決定した。具体的には、毎月開催する「新入会員オリエンテーション」の場で「お試し参加」を奨励し、特にメンバー数が 40 名台のグループに対しては積極的に参加を呼びかけることとした。

さらに 2 月幹事会において両代表世話人より産業懇談会の活動紹介と未登録の幹事への勧誘を呼びかけるとともに、代表して世話人の一人からグループの活動紹介を行い、知り合いの会員への個別勧誘を依頼した。その結果、退会者はあるものの年度末のメンバー総数は 845 名(前年度 841 名: 4 名増)となった。また昨年度より「お試し参加」の取り組みを通年で実施することとした結果、本年度は 65 件・43 名から申し込みがあった(前年度 8 件・6 名)。

各グループの活動状況は以下の通りである。

#### 〔第1火曜グループ〕

例会を9回、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバーの所属企業・業界の現状や今後の課題について、外部講師からは、インバウンド消費、パラリンピック競技団体の現状、アメリカ大統領選挙の展望、ゴルフをより楽しむ秘訣、ロボットやドローンに係る政府の取り組み状況、および伝統文化に学ぶ経営手法など幅広いテーマに関する話題提供・講演と意見交換を行った。また、当グループメンバー間の親交を深めるため、懇談会を5月に実施した。11月に運営委員会を開催、次年度の運営体制と企画等について討議・決定した。

#### 〔第1水曜グループ〕

例会を10回（見学会1回を含む）、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバーの所属企業・業界の現状や展望・戦略などについて、あるいは外部講師を招いた際には中国・習近平改革について、話題提供・講演と意見交換を行った。また、10月にはオリエントランドの見学会を実施した。なお、本年度は新たな話題提供の形式として、グループメンバー4名によるパネルディスカッション「企業の変革を支援するプライベート・エクイティ・ファンドの実態について」を実施した。運営委員会は2月に開催、次年度の活動方針と企画について討議・決定した。

#### 〔第1木曜グループ〕

例会を9回、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバー自身の事業の紹介や業界の動向・課題などについて、外部講師からは、経済情勢の展望、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた治安上の課題と対策、働き方改革の進め方などをテーマに、話題提供・講演と意見交換を行った。運営委員会は3月に開催、1月に急逝された早川洋世話人の後任人事とともに次年度の運営体制と企画等について討議・決定した。

#### 〔第2火曜グループ〕

例会を10回、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバーの所属企業・業界の現状や今後の課題について、また外部講師からは、マインドフルリーダーシップ、東京電力福島第一原発事故からの復興、日本のスキー事情、EU離脱選択後の英国と欧州、2017年の金融経済見通し、ヘルスケアテクノロジーなど幅広いテーマに話題提供・講演と意見交換を行った。さらに、メンバー間の交流を目的とした新年懇談会を開催した。運営委員会は1月に開催、次年度の世話人・運営委員体制と企画等について討議・決定した。

#### 〔第2水曜グループ〕

例会を10回（見学会1回を含む）、運営委員会を1回開催した。例会では、新たに参加されたメンバーから自身の事業や業界の動向について、外部講師からは中国経済の現状と今後の見通しをテーマに、話題提供・講演と意見交換を行った。見学会は、ANA機体工場を見学、航空機整備に携わる整備士からの説明と整備の現場を視察することで知見を深めた。さらに、他グループとの交流を深めるため、「第2金曜グループ」「第3水曜グループ」との新年合同懇談会を実施した。運営委員会は11月に開催、次年度の世話人・運営委員体制、企画等について討議・決定した。

#### 〔第2木曜グループ〕

例会を11回、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバーから所属企業の価値向上に向けた取り組みについて、外部講師からは、政治や経済に関するテーマとして、日本経済の見通し、日印関係のあり方、米国大統領選挙の見通し、日本の税制改革について、より現場に近いテーマとして、ビットコイン（仮想通貨）、ROE（株主資本利益率）経営、地域振興、日本企業による海外企業のM&A、国内レジャー産業について、さらに身近な話題として贈与と遺言について、幅広い話題提供・講演と意見交換を行った。運営委員会は2月に開催、次年度の世話人・運営委員体制、企画等について討議・決定した。

#### 〔第2金曜グループ〕

例会を10回（見学会1回を含む）、運営委員会を2回開催した。例会では、メンバー自身の事業の紹介や取り組み、経済動向などについて、また外部講師からは、企業経営、教育、国際情勢などをテーマに話題提供・講演と意見交換を行った。見学会は羽田クロノゲートを見学、高速に大量の荷物を処理できる最新物流ターミナルを見学した。さらに他グループとの交流を深めるため「第2水曜グループ」「第3水曜グループ」との合同新年懇談会を実施した。運営委員会は9月、3月に開催、次年度の世話人・運営委員体制と企画等について討議・決定した。

#### 〔第3火曜グループ〕

例会を10回（見学会1回を含む）、運営委員会を2回開催した。例会ではメンバー自身の所属する企業・業界の動向などについて、外部講師からは、人工知能・ビッグデータ・フィンテック・オープンイノベーションといった現在話題となっているテーマや、経済学・経営学・製造物責任法といった学問的なテーマなど、幅広いテーマで話題提供・講演と意見交換を行った。1月にはメンバー間の交流を目的とした新年懇談会を開催した。運営委員会を6月と2月に開催し、これまでの活動状況を踏まえ

た上で、今後の運営方針と外部講師の講演テーマ、新規メンバーの勧誘などについて討議・決定した。

#### 〔第3水曜グループ〕

例会を10回、運営委員会1回を開催した。例会では、メンバー自身の所属企業・業界の状況や動向、デジタル化社会への対応、オリンピックカヌー競技、働き方の展望などについて、外部講師からは、日本経済、アゼルバイジャン経済、イノベーションの創出、人口減少問題など、幅広いテーマで話題提供・講演と意見交換を行った。見学会は、古川地下調節池の洪水被害対策を見学した。さらに、他グループとの交流を深める、「第2水曜グループ」「第2金曜グループ」との新年合同懇談会を実施した。12月に開催した運営委員会では、次年度の運営方針と企画等について討議・決定した。

#### 〔第3木曜グループ〕

例会を10回（見学会1回を含む）、運営委員会を2回開催した。例会では、メンバー自身の所属企業・業界の現状や取り組みについて、外部講師からは、宇宙、能楽、東北の震災復興、物流からみた世界経済、2017年の経済見通し、トランプ政権の展望など、多岐にわたるテーマについて、話題提供・講演と意見交換を行った。見学会では、ANA機体工場を訪問し、航空機整備に携わる整備士からの説明と整備の現場を視察することで知見を深めた。メンバー間の交流を目的とした新春懇談会を開催した。運営委員会は2月・3月に開催、次年度の運営体制、企画等について討議・決定した。

#### 〔第4火曜グループ〕

例会を10回（見学会1回を含む）、運営委員会を2回開催した。文化・芸術面に軸足を置く企画・運営方針を継続した。世界的に著名な照明デザイナー（メンバーによる話題提供）、仏政府より勲章を受けた漫画家、人間国宝の漆芸家、劇団社長も兼務する劇作家（以上外部講師による講演）など工夫を凝らした企画を展開した。見学会は、羽田空港のオペレーションマネジメントセンターと機体整備工場の視察を実施、終了後にメンバー間の交流を目的とした懇談会を開催した。運営委員会は11月に開催、減少傾向にある会員の増強策を討議、分担して勧誘を行うことで、短期間に7名のメンバー増を達成した。

#### 〔第4水曜グループ〕

例会を10回（見学会1回を含む）、運営委員会を1回開催した。例会では、新入会メンバーを中心に、最先端AI技術が産業にもたらす影響、科学的根拠に基づく地震リスク評価の重要性、顧客ロイヤリティ経営による顧客生涯価値の最大化、中途採

用の秘訣と人材紹介会社活用のコツなど、幅広いテーマについて話題提供と意見交換を行った。見学会では日本 IBM 社の「クライアント・エクスペリエンス・センター」を訪問し、終了後にはメンバー間の交流を目的とした懇談会を開催した。運営委員会は 2 月に開催、一年間の活動の総括とともに、次年度の活動方針や活性化等について討議・決定した。

#### 〔第 4 木曜グループ〕

例会を 9 回、運営委員会を 1 回開催した。例会では、メンバー自身の所属企業・業界の動向について、外部講師からは、歌舞伎、ネット時代の設計論、渋滞学、落語家による挨拶力、作家・故井上ひさし氏の作品や劇団運営について、翻訳者からみた帳簿の世界史、ビックデータ型人工知能など、幅広いテーマについて講演と意見交換を行った。また、メンバーの間の交流を目的とした新年懇談会を開催した。運営委員会は 2 月に開催、次年度の世話人・運営体制や企画等について討議・決定した。

#### 〔第 4 金曜グループ〕

例会を 9 回（見学会 1 回を含む）、運営委員会を 1 回開催した。例会では、新たにグループに参加したメンバー自身の事業や業界に関しての話題提供をはじめ、他グループメンバーや外部講師より、ダイバーシティ推進による企業競争力向上、日本のブランディング推進、2017 年の内外経済情勢、ICT 利活用、新しい学びのスタイルなどをテーマに講演・意見交換を実施した。見学会では、キッコーマン野田工場を訪れ、知見を深めた。さらに、交流を深めるため、忘年合同懇談会を開催した。運営委員会は 2 月に開催、一年間の活動、次年度運営委員体制等について討議・決定した。

### （ 4 ）経済懇談会

経済懇談会（高柳浩二世話人、岡田伸一世話人）は、1997 年の発足以来、企業の第一線の経営者（副社長・専務・常務・執行役クラス）を構成メンバーとし、企業経営における実践的な課題について意見交換を行っている。メンバーは多様な業種から成り、本年度は 24 名中 4 名の新任委員を迎えた。活動としては、2016 年 9 月から 2017 年 3 月までに定例会合（原則として毎月 2 回：朝会形式）を 11 回、施設見学会を 1 回開催した。

本年度の活動テーマとして「競争力の飛躍的向上に向けた経営革新」を掲げ、議論を重ねた。会合では、原則としてメンバーから、自社の経営課題や取り組み事例、自らの問題意識について話題提供を行い、その後質疑応答と自由な意見交換によって議論を深めた。

外部有識者からのヒアリングでは、松尾豊 東京大学大学院 工学系研究科 特任准

教授より、「人工知能（AI）と競争力」の演題の下、人工知能の力で画像を認識する技術を持ったロボットや機械の将来性などについての講演、意見交換を行った。また、作家・エッセイストの阿川佐和子氏より、平易な言葉で物事を説明することや、対談において相手の発言を上手に引き出すことの重要性について伺った。

施設見学は2月、東日本高速道路が建設中である東京外郭環状道路（千葉県内）の建設現場および岩槻道路管制センターを訪問した。京葉道路とのジャンクションなどの難工事現場の視察と、最先端の映像・通信技術を駆使して東日本の広範囲にわたる高速道路を管制するセンターの見学を通じて、国家の重要なインフラを支える民間企業としての経営課題について知見を得た。

最終会合では、本年度活動の総括を行い、世界的な低成長の時代を生き抜き、企業の持続的成長を実現するための競争力戦略について意見交換を行った。

#### （5）創発の会

創発の会（早川洋座長、2017年1月逝去）は、原則として本会入会后2年以内の会員を対象とし、委員会活動への本格的参画のためのファースト・ステップとなる場を提供している。

1999年1月の発足以来、本会の理念、先達経営者の気概を幹部会員から新入会員へ伝承するとともに、忌憚のない意見交換を通じて幹部会員を触発し、本会活動全体の活性化につなげることを目的に活動している。会合は毎月1回夕刻より講演会と懇談会（ドリンクパーティ）の2部構成で開催している。

本年度は7月に正副座長会議を開催し、本会の基本方針に基づき、創発の会が果たすべき役割について認識の共有を図った上で、運営方針と活動内容について決定した。

年度初めの会合では、本会創立70周年を迎える新年度活動方針の周知を図る活動を展開した。第1回は、小林喜光 代表幹事より経済同友会の考える将来ビジョン「Japan 2.0へ『SAITEKI 社会』を描く」について、第2回は、横尾敬介 副代表幹事・専務理事より第30回夏季セミナーで議論された「Japan 2.0 SAITEKI 社会」の主要課題の方向性やキーワードなどを報告するとともに、本年度活動への積極的な参画と、支援・協力を呼びかけた。また、経済同友会の提言活動のトピックとしては、小林いずみ 副代表幹事より「ミレニアル世代 ~ デジタルネイティブが担う新しい時代への変貌 ~ 」と題して、稲葉延雄 幹事・経済統計のあり方に関する研究会座長より『豊かさの増進に向けた経済統計改革と企業行動』についてそれぞれ講演を伺い、意見交換を行った。さらに革新的な企業経営を推進する経営者からの講演と意見交換を実施した。また講師の講演後に行うグループ・ディスカッションは2回実施し、「日本が抱える課題解決のために経済同友会、企業、経営者は何をすべきか?」、「新産業革命の時代の成長戦略」の各テーマについてさらに議論を深めた。

3月には創発の会の設立趣旨の通り、活動期間が満2年を経過したメンバー105名の修了式を行った(メンバー総数274名)。

#### (6) リーダーシップ・プログラム

リーダーシップ・プログラム(長谷川閑史委員長)は、幅広い視野を有し社会のリーダーとしても活躍し得る次世代の経営者育成を目的としており、会員所属企業の若手役員(主に取締役、執行役員クラス)で本会未入会者を対象に実施している。2003年度から開始し本年度で第13期目を迎えたが、昨年度までに合計281名が本プログラムを卒業、このうち70名が本会へ入会している。

本年度は、24名のメンバーが、2016年7月~2017年2月の間に、2回の合宿を含む12回の会合を行い、優れた経営を実践している経営者やさまざまな分野で活躍されている方の話を伺いながら、「リーダーのあり方」「企業経営論」「人材育成」などについて自由闊達な議論を重ねた。2回の合宿では、講師による講演のほか、それぞれ「イノベーションを生み出し続ける企業風土をどのように構築するか」「社長就任演説」と題し、個人スピーチ発表を行った。また、プログラムを総括する宮崎合宿では、各自が実際の経営課題を持ち寄り、模擬取締役会形式のグループ討議を実施した。また、12月には、毎年恒例となっている第1期~第13期の参加者合同懇談会を実施した。幅広い業種から集まったメンバー同士の交流は、プログラム卒業後のネットワーク形成にも役立っている。

#### (7) ジュニア・リーダーシップ・プログラム

ジュニア・リーダーシップ・プログラム(前原金一委員長)は、企業的意思決定ボードのダイバーシティ実現に向けて、次期上級幹部を育成することを目的としており、会員所属企業の部長クラスを対象に2012年度から実施している。

第5期目となる本年度は、24名(女性19名、男性5名)が参加し、2016年7月から2017年2月までに12回の会合を開催した。講師には、ダイバーシティ促進への取り組みに積極的で、革新的かつグローバルな経営を実践している企業経営者を中心に招き、組織のマネジメントや人材育成、ダイバーシティ実現のための取り組みなどに関する話を伺った。講演後の質疑応答では、参加者が直面している具体的な課題について講師からアドバイスを受けた。

また、本年度は初めての取り組みとして、各会合での学びを定着させるとともに、メンバー間の議論を深め、自らのリーダーシップを醸成することを目的に、少人数でのグループ研究を実施した。最終会合では、各グループの研究成果を発表し、今後どのようにリーダーシップを発揮していくか、意見交換を行った。

さらに、第1期～第5期までの参加者での合同忘年懇談会を開催し、年度を越えた親睦を深めネットワークの強化を図った。